

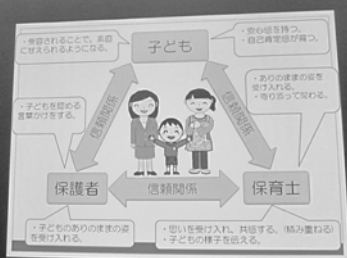
岡山県保育研究大会で発表

1月24日(月)～25日(火)、岡山コンベンションセンターで行われた岡山県保育協議会研究大会に、鏡野町保育協議会が久米苦田地区保育協議会を代表して発表しました。

この研究は、平成19年から平成22年の4年間『子どものコミュニケーション能力を育てる』～人との関わりを楽しめる子どもに～をテーマに取り組みました。

第12回 岡山県保育研究大会

すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして



発表する定廣保育士



わらべうたや集団遊びなどを通して、子どもの気持ちを理解し、1対1でゆったり関わるのがコミュニケーションの育ちには大切なことや、子どもに寄り添った関わりも大切であることなどを発表しました。

これからも、子ども達が、人と関わって遊ぶ楽しさを経験するなかで、コミュニケーション力が育つように取り組んでいきたいと思っています。



感謝状を受け取った6園の研究リーダー



館長のガラストーク



今回は、3月30日(水)から開催する平成23年度上期企画展「エピソードでたどるーウランガラスの世界」展をご紹介します。本展では開館からの5年間に妖精の森ガラス美術館がウランガラスについて研究した成果をまとめ、コレクターやギャラリーの協力を得て全国から集めた、話題性に富んだウランガラスを100点ほど展示します。

欧米でも日本でも、市民生活に驚くほど浸透し愛好されていたウランガラスの姿を浮き彫りにし、一つひとつの作品に秘められた意外なエピソードに耳を傾けながらウランガラスの世界をたどる内容になっています。

今回はその中から、日本人が最も好むフランス・アールヌーヴォーのガラス工芸家、エミール・ガレの「雪に雀文花瓶」をご紹介します。雪中の雀を描いたこの作品は、日本の工芸家が作ったのではないかと思わせるほど、ガレの特徴である「ジャポニスム(日本趣味)」という作風をよく示しています。ウランガラスの緑が、まもなくやってくる新緑の季節を力強く予言しています。

なお、現在開催中の平成22年度下期企画展「～光と色彩のイリュージョン～ 石井康治ガラスアート展」は、3月28日(月)で終了します。
まだ「石井康治ガラスアート展」をご覧になっていない方は、ぜひ美術館へお越しください。

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話 (0868) 44-7888